

X. ヨブ ②



絶望の時における表現

人は、自分の力で解決できないような環境に置かれて混乱すると、その苦難について神を責めるという誘惑に駆られます。神は人を苦難から解放することがおできになるのにそれをなさらないとなると、人の思いとしては、解放されないこの痛みについて、神はご自分の責任をお取りになるべきだと考えるのです。そして、その痛みと格闘し混乱する中で、人の思いはいらだちと絶望という、さらに強力な相手に屈するところとなるのです。ヨブも同様でした。筆舌に尽くしがたい悲しみのゆえに、その視界は曇り、神について歪んだ見方をするようになったのです。

たとい「不平を忘れ、憂うつな顔を捨てて、明るくなりたい」と私が言いましても、私の受けたすべての苦痛を思うと、私はおびえます。私は知っています。あなたは、私を罪のない者とはしてくださいませ。私はきっと、罪ある者とされましょう。ではなぜ、私はいたずらに労するのでしょうか。たとい私が雪の水で身を洗っても、灰汁で私の手をきよめても、あなたは私を墓の穴に突き落とし、私の着物は私を忌みきらいます。神は私のように人間ではないから、私は「さあ、さばきの座にいっしょに行こう」と申し入れることはできない。私たちふたりの上に手を置く仲裁者が私たちの間にはいない。神がその杖を私から取り去られるように。その恐ろしさで私をおびえさせないように。(ヨブ 9:27-34)

人は苦難のゆえに、思考と感情の均衡を失いそうになります。ヨブの祈りの中に現された魂の苦々しさというものについて、私たちはヨブを一方的に責め立てることはできません。

私は自分のいのちをいとう。私は自分の不平をぶちまけ、私のたましいの苦しみを語ろう。私は神に言おう。「私を罪ある者となさらないように。なぜ私と争われるかを、知らせてください。…あなたの御手は私を形造り、造られました。それなのにあなたは私を滅ぼそうとされます。…もし、私が罪ある者とされるのなら、ああ、悲しいことです。私は、正しくても、私の頭をもたげることはできません。自分の恥に飽き飽きし、私の悩みを見えていますから。私の頭が上がると、あなたはたける獅子のように、私を駆り立て、再び私に驚くべき力をふるわれるでしょう。…なぜ、あなたは私を母の胎から出されたのですか。私が息絶えていたら、だれにも見られなかったでしょうに。私が生まれて来なかったかのように、母の胎から墓に運び去られていたらよかったものを。私の生きる日はいくばくもないのですか。それではやめてください。私にかまわないでください。私はわずかでも明るくなりたいのです。私が、再び帰らぬところ、やみと死の陰の地に行く前に。 (ヨブ 10:1-2、8、15-16、18-21)

ヨブは、すぐに神が自分の上にお臨みになるのに気づきましたが、それでも、自分の置かれた環境についての謎を解くことはできませんでした。人は時として、自分の環境にあまりに圧倒されるがゆえに、その先にあるものを見ることができないものです。自分の体験の終わりをみることができているならば、ヨブの態度は完全に変わったことでしょう。同時に、神の輝かしい目的は達成されず、ヨブは神にとっての最善に気づくことは絶

対になかったことでしょう。神のことを知る人々は、その輝かしい終わりもまた神の御手にあるということを知っているのです。この確信こそが信頼と平安を生み出すのです。ヨブのような試練に直面したならば、眼前のジレンマに集中してはなりません。結果はあくまで、愛に満ちた神によってデザインされているのだという確信に目を向けなければならないのです。

絶望した人々は、死を願って祈るか、少なくとも逃げ抜きたいと(詩篇 55:6)祈るものです。しかし、逃げようとする姿勢から価値ある解決が生まれることはほとんどありません。もしもこの祈りが答えられていればヨブが何を失ったか、考えてみましょう。「ああ、あなたが私をよみに隠し、あなたの怒りが過ぎ去るまで私を潜ませ、私のために時を定め、私を覚えてくださればよいのに。人が死ぬと、生き返るでしょうか。私の苦役の日の限り、私の代わりにの者が来るまで待ちましょう」(ヨブ 14:13-14)。

この祈りには正面切って向き合う要素がありますが、このような祈りが苦難から生まれる率直な混乱と苦難が激しくなることから育ってくるときには、神は不愉快な思いをなさることはなく、お怒りになることもありません。「人は死ぬと再び生きることになるのか」||ヨブの格闘は、生と死の完全な意味をめぐっての格闘でした。彼は未来に向けての光を求めていました。深い試練と織烈な格闘の中にあるとき、人は問題と真剣に向き合わざるを得なくなります。しかし、クリスチャンは大いに有利なところに位置しています。というのも、私たちの主イエス・キリストは、「死を滅ぼし、福音によって、いのちと不滅を明らかに示され」(2テモテ 1:10)。

そのようなときには、ソロモンの願いがよく思い出されるものです。「心を尽くして主に拠り頼め。自分の悟りにたよるな」(箴言 3:5)。時が来れば、(ヨブにとってもそうであったように)雲は消えて無くなります。そして神は、ご自分がどのようなお方であるか、すなわち、憐れみの神であるとともに、大いなる知恵の神であることをお示しになるのです。

神の主権に服従する

ヨブの祈りに見られる、こともあろうに死を待ち望み、苦々しさに満ちた口調は、次第に変わっていきました。何かが突如として転機をもたらしたのです。ヨブ自身がその原因を説明しています。「私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました」(ヨブ 42:5)。神をありのままの姿で見たとき、人生全体、死をも見つめる彼の見方が完全に変わるところとなったのです。

ヨブは主に答えて言った。ああ、私はつまらない者です。あなたに何と口答えできましょう。私はただ手を口に当てるばかりです。一度、私は語りましたが、もう口答えしません。二度と、私はくり返しません。(ヨブ記 40:3-5)

ヨブは主に答えて言った。あなたには、すべてができること、あなたは、どんな計画も成し遂げられることを、私は知りました。…私はあなたのうわさを耳で聞いていました。しかし、今、この目であなたを見ました。それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています。(ヨブ記 42:1-2、5-6)

ヨブはもはや、神と英知を競おうとすることもなく、自分の問題を合理的に解決しようとするところでもありませんでした。自分の義を求めることもありませんでした。終わりが無いかに見える環境に対するいらだちと闘うところでもありませんでした。代わりに、彼は自分自身を完全に新しい光の中で見るようになりました。これはとりもなおさず、人々が神に出会う時に必ず起こることです(イザヤ 6:1-5を参照)。ヨブはいまや、自分を「つまらない者」と見るようになりました。その告白は謙遜で正直なものでした。「私は多くを語り過ぎた。神と口論をし、論じ合うなど、私は何者だったのか。確かに、私は自分のつまらない能力をはるかに超えて事を扱おうとしていた。平たく言って自分が無知だったことなのに。自分が口をつぐんでいるべきだったことなのに」(著者による言い換え)。正真正銘の告白がなされるとき、そこには真の悔い改めが起きます。あるいは、その告白もまた、真の悔い改めの一部をなすものであるのです。「それで私は自分をさげすみ、ちりと灰の中で悔いています」(42:6)。

族長たちは祈りの人々でした。彼らは、モーセによってもたらされた形式的な祈りと礼拝の型の前に行く人々でしたが、神がいけにえと従順な心を求めておられることを知っていました。これらの必要を満たすことにより、彼らは神との交わりを楽しんでいました。その交わりこそ、神がその御顔を真撃に求める人々にお語りになり、彼らからの礼拝をお受けになってくださるといことが示される場であったのです。

？ 質問

1. 人は自分の力で解決できないような環境に置かれると混乱してある誘惑に駆られます。それはどんな誘惑ですか？ あなたも同じような経験がありますか？
2. ヨブのような試練に直面したならば、どのような確信委目を向けなければいけませんか？ そのためにはどうしたらよいと思いますか？
3. 神はヨブがしたような祈りを不愉快には思われませんか。時が来れば、神は私たちに何を教えてくださいますか？ あなたも同じような経験がありますか？
4. ヨブはついに神の主権を認めることができました。どんな悩みも神の主権の下にあると気づかされると、人生はどのように変化すると思いますか？



祈り

主よ。苦しい時、ヨブのように自分が感じているありのままを正直にあなたに打ち明けることが出来ますように。そしてついにはあなたに出会うことが出来ますように、自分の人生を見る見方が変わりますように。

学びのための問い

1. 族長たちに見られる例の中で、祈りと信仰が互いに関連しているということを示す例には、どのようなものがあるでしょうか。
2. 族長たちに見られる例の中で、祈りと従順な心とが互いに関連しているということを示す例には、どのようなものがあるでしょうか。
3. アブラハムの祈りの中に、私たちが今日、従うべき良い模範となるような特徴があるでしょうか。説明してください。
4. 瞑想の持つ価値にはどのようなものがあるでしょうか。私たちはどのようにすれば、祈りの生活の中に瞑想をもっとうまく取り込むことができるでしょうか。
5. ヤコブのように祈りの中で格闘するということに何か意味はあるでしょうか。私たちはどのようにすれば、自分たちの祈りをもっと積極的な形で集中したものとすることができるでしょうか。
6. ヨブの祈りから学ぶことのできる大きな教訓がいくつかあるとすれば、何でしょうか。